

目 次

1 提案趣旨 1

2 提案内容 1

(1) 研究の概要

(2) 研究の実際

(3) 研究の成果

3 今後の課題 10

(1) 各教科等のねらいと防災対応能力との関連を図った継続的な指導

(2) 地域連携のための連絡調整や時間確保

安全で安心な地域づくりに貢献する意識を育てる教育活動の工夫 ～栃木市防災教育基本プログラムを活用した主体的な学びを通して～

提案者 栃木市立千塚小学校教諭 大岡 裕

1 提案趣旨

平成23年3月に発生した東日本大震災から7年の歳月が経過し、現在の栃木市吹上地区（以下本地区）には平穏な時が流れている。しかし、平成26年8月には竜巻災害、平成27年9月には大雨被害と、その後も本地区が甚大な災害に見舞われたことは記憶に新しい。未来の本地区を担っていく人間が、防災意識を高めながら安全で安心な地域づくりを目指して努力していかなくてならないことは言うまでもない。

また、吹上中学校区の三校と地域が連携して学力向上や道徳教育に取り組むなど、本地区全体で児童・生徒の育成を目指してきた。吹上中学校区の目指す子ども像として「ふるさとに愛着と誇りを持つ子ども」が大きく掲げられていることからも、今後はさらに「地域づくり」に貢献する意識を高めていきたいと考えている。

以上のことから、「栃木市防災教育基本プログラム」の自校化を図りつつ、防災意識を高めながら主体的に活動できる児童・生徒の育成を目指し、研究を進めてきた2年間の取組を紹介する。

2 提案内容

(1) 研究の概要

① 目指す児童・生徒像

【吹上中学校区における目指す児童・生徒像】

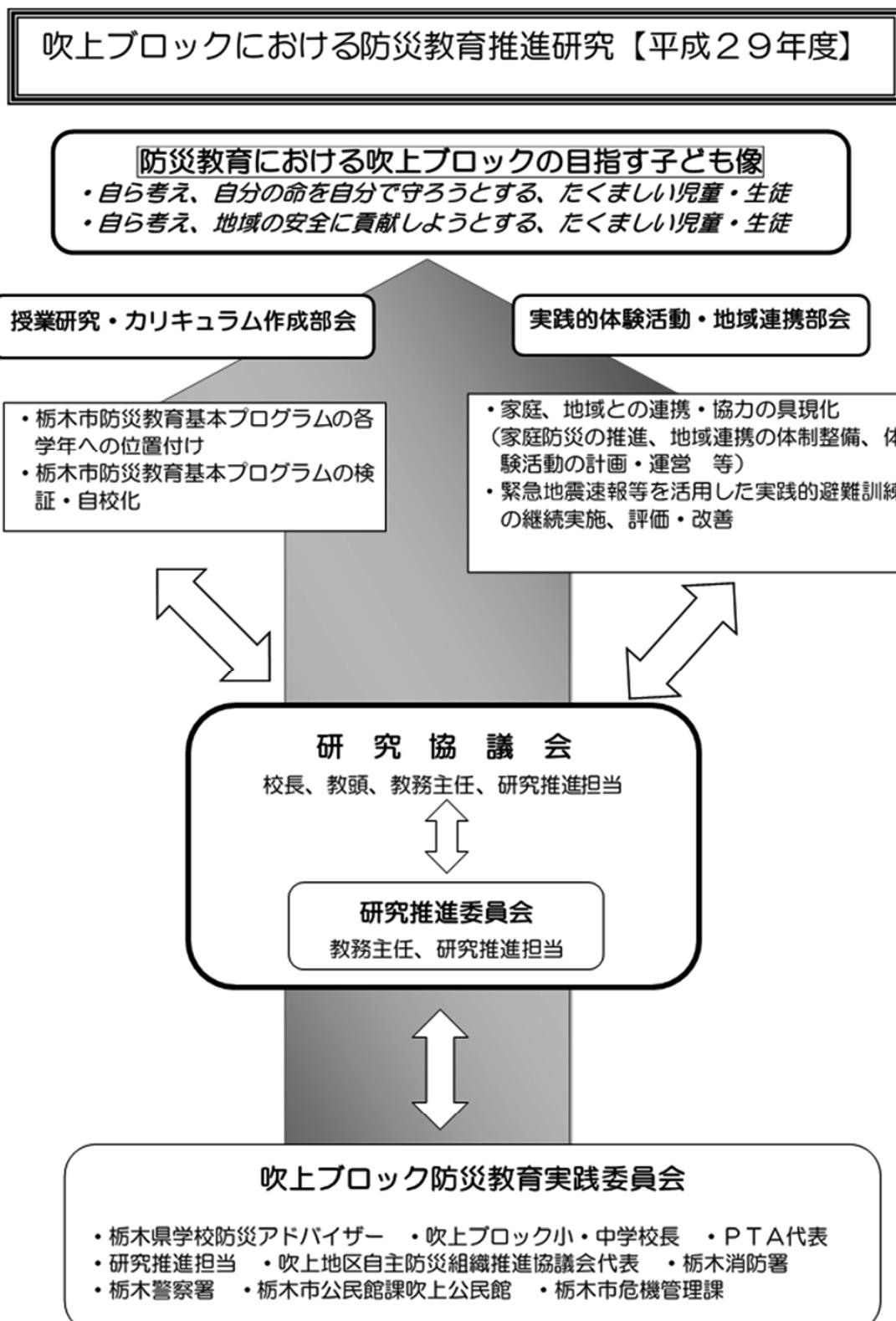
- ・自ら考え、自分の命を自分で守ろうとする、たくましい児童・生徒（自助）
- ・自ら考え、地域の安全に貢献しようとする、たくましい児童・生徒（共助）

自然災害への理解を深め、適切な意志決定や行動選択に基づいて自ら安全を確保しようとする力（自助の力）、自他の生命を尊重し、学校・家庭・地域の活動に参加・協力し、進んで地域の安全に貢献しようとする力（共助の力）を育むために、9年間をかけて目指す児童・生徒像として、小学校段階では「自助」の部分をしっかり身に付け、そこを土台として中学校段階ではさらに「共助」の部分を身に付けさせようという意図でこのように設定した。

② 9年間で育む「防災対応能力」

防災対応能力（防災リテラシー）				
観 点	小学校（低学年）	小学校（中学年）	小学校（高学年）	中学校
①自然災害等に関する基本的な知識	<p>ア 局地的大雨や雷、竜巻、地震等による災害について知る。</p> <p>イ 学校生活における災害発生時の安全な行動の仕方について知る。</p>	<p>ア 局地的大雨や雷、竜巻、地震等による災害の危険性について理解する。</p> <p>イ 日常生活における災害への備えや災害発生時の安全な行動の仕方について理解する。</p>	<p>ア 自然災害の種類について理解する。</p> <p>イ 過去の災害から、時間や場所により被害に違いがあることを理解する。</p> <p>ウ 防災や災害対応を行う関係機関やその取組について理解する。</p>	<p>ア 自然災害の発生のメカニズムについて理解する。</p> <p>イ 指定避難所や避難場所の役割について理解する。</p>
②危険予測や主体的に行動する技能	<p>ア 気象の変化等による危険性について、気付くことができる。</p> <p>イ 危険を回避するために落ち着いて行動することができる。</p>	<p>ア 気象の変化等による危険について考え、予測することができます。</p> <p>イ 危険を回避するために素早く安全に行動することができる。</p>	<p>ア 災害時における危険を予測し、率先して避難行動をとることができます。</p> <p>イ 危険箇所や避難方法について考え、ハザードマップ等を活用して行動することができる。</p>	<p>ア 様々な状況下での避難や護身の方法を考え、より安全な行動を選択することができる。</p> <p>イ 様々な人と協力して避難所運営の補助ができる。</p>
③生命尊重や社会貢献に対する態度	<p>ア 生命を大切にする心をもち、自分の命を自分で守ろうとする。</p> <p>イ 友だちと協力し安全に役立とうとする。</p>	<p>ア 生命の尊さを感じ取り、自分の命を自分で守ろうとする。</p> <p>イ 友だちと協力し進んでみんなの安全に役立とうとする。</p>	<p>ア 自他の生命のかけがえなさを理解し、自分たちの命を自分たちで守ろうとする。</p> <p>イ 自分の役割を自覚し、災害時に他者や集団、地域の安全に役立とうとする。</p>	<p>ア 自他の命を尊重し、自分自身や他者の命を進んで守ろうとする。</p> <p>イ 地域の防災や災害時の助け合いの重要性を理解し、主体的に活動に参加しようとする。</p>

③ 研究組織



(2) 研究の実際

① 授業研究・カリキュラム作成部会の研究実践

ア 平成28年度の吹上ブロック授業実践の記録

学校名	学 年	各教科等	題材名・内容・ねらい等
吹上小	5 年	学 活	「緊急地震速報を聞いたときの正しい行動を考える」 ・宇都宮地方気象台のプログラムの実践 ・緊急地震速報の基本的な知識や地震による物の動き方を知り、地震発生時の安全な対応の仕方について考える。
吹上中	3 年	道 德	「いなむらの火」 ・生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の命を尊重する。 ・生命がかけがえのないことを知り、自他の命を尊重しようとする心情を育てる。
吹上小	3 年	道 德	「やさしさにふれて」(自作資料) ・話合いや役割演技などを通して、困っている人に対して、相手の立場に立ち、進んで親切にしようとする心情を養う。
	5 年	社 会	「自然災害から人々を守る」 ・既習事項を活用し、自然災害から命やくらしを守る備えについて考え、表現することができる。
吹上小	2 年	学 活	「登下校中に地震が起きたら」 ・登下校中に地震が起きた場合の危険箇所を考え、家や学校以外の場所でも、自分で判断して安全な行動ができるようにする。
千塚小	4 年	道 德	「二つの命」 ・私の思いの変化を考えさせることを通して、尊い命を肯定的、積極的に精一杯生かしていこうとする道徳的実践力を養う。
	6 年	理 科	「地震や火山活動からくらしを守る」 ・地震に対する備えについて調べたことを発表し合い、地震災害からくらしを守る意識を高める。
吹上中	1 年	理 科	「音の伝わり方」 ・音の速さを様々な角度から実感し、音速を利用して音源までの距離や音を跳ね返す物体までの距離を算出することができる。 ・雷を光と音を発するものとして捉え、光と音の速さの差により、発雷地点までの距離の算出方法を考えることができる。

イ 平成28年度のカリキュラム作成

平成28年度は、防災教育を9年間の学校教育全体を通して、系統的・計画的に行うために、各教科等で関連のある内容を洗い出し、防災として位置付けた。また、発達の段階に応じて児童・生徒に身に付けさせるべき防災対応能力を確認し、指導すべき内容を、学級活動を中心に、どの学年にどのように位置付けるかを検討してきた。

ウ 千塚小4年道徳の授業実践

・『二つの命』

東日本大震災の津波による祖母の死を自分のせいだと自責する「私」の相談と、それに共感的な理解を示し温かな言葉で励ます心療内科医の回答を基にした資料を通して、命をただあるもの、与えられたものとしてとらえるだけに留まらず、たった一つの尊い命を肯定的、積極的に生かしていこうとする道徳的実践力を養った。



エ 千塚小6年理科の授業実践

・『地震に対する備えについて調べたことを発表しよう』

「大地のつくりと変化」で学んだ地震や火山の噴火による大地の変化をふまえて、地震に対する備えについて調べたことを発表したり、友達の発表やゲストティーチャーの話を聞いたりする活動を通して、自然災害からくらしを守る意識を高め、主体的に行動する力を高めていくようにした。



オ 授業実践を通して

防災を意識しすぎてねらいがぶれないようにすること。まず、各教科等のねらいを達成することが大切であることが分かった。特に、道徳ではねらいとする価値、例えば生命尊重、勤労、奉仕、郷土愛等にしっかりと迫っていくことが防災にも関わってくると考えられる。

また、吹上ブロックの学校で洗い出した防災に関する各教科等の内容を基に、「栃木市防災教育基本プログラム」が作成された。このことから、平成29年度は、各校の昨年の実践を「栃木市防災教育基本プログラム」との関連から見直し、学級活動を中心に、各校に合った、より指導しやすく効果的な指導計画となるよう改善を図った。

力 「栃木市防災教育基本プログラム」への位置付け一覧（千塚小学校）

		小学校					中学校
		低学年	中学生	高学年			
地震		○緊急地震速報を聞いたときの正しい行動 ・緊急地震速報を聞いたり、強い揺れを感じたりしたときに、どうすれば自分の身を守れるかについて考え、実践する (中学校においては、地震以外の自然災害を確認する)					
	○地震からの身の守り方 (学校内) ・校内で地震が起きたときの安全な行動の仕方について知る(①ーイ) 避難訓練	○地震からの身の守り方 (学校外) ・学校外で地震が起きたときの安全な行動の仕方について理解する(①ーイ) 通学路調査 S学活 ・学校外を歩いて、地震が起きたことを想定した安全な行動をとることができる(②ーイ) 1年学活 避難訓練	○地震の発生状況に応じた身の守り方 ・過去の大地震の被害の特徴を理解する(①ーイ) 6年理科 ・地震が発生した季節や時間帯・場所でどのような避難行動をとったらよいかを考え、予測することができる(②ーイ) 5年社会 避難訓練		○災害が起った時の避難所での行動 ・避難所での様々な状況で自分たちにできることを考えることができる(②ーイ) ・避難所で自分自身だけではなく、地域の方の命を進んで守ろうとする(③ーイ)		
災害		○学校内の危険箇所 ・学校内を歩いて、地震が起きたことを想定した安全な行動をとることができる(②ーイ) 2年学活 避難訓練	○地震への備え(家庭でできること) ・家庭での地震の被害を小さくすることや避難に備えるための手立てについて理解する(①ーイ) 4年学活 ・災害が起きたときに、自分の命は自分で守ろうとする(③ーイ) 4年学活 避難訓練	○避難所までの避難ルートマップ ・地域の危険箇所はどこか、どのルートが安全かを考えることができる(②ーイ) 6年学活 通学路調査 ・自分たちで作成した避難ルートマップを校内に掲示することで地域の安全に役立とうとする(③ーイ) 6年学活		避 難 所 運 営	
	○大雨が降ったときの安全な行動の仕方 ・大雨が降った時の危険性について知る(①ーイ) S学活	○大雨による災害からの身の守り方 ・雨の多い季節や雨の降り方による危険について考え、予測することができます(②ーイ) 3年学活 ・危険を感じ、安全を考えて行動することの大切さに気付き、自分の命を守ろうとする(③ーイ) 3年学活	○洪水、土砂災害等の危険の予測と身を守る避難の仕方 ・栃木市で起きた過去の水害について理解する(①ーイ) 5年社会 ・栃木市防災ハザードマップをもとに、危険箇所はどこかについて考えることができます(②ーイ) 5年社会	○避難所運営に必要なこと ・避難所の役割や仕事について理解する(①ーイ) ・地域の防災や災害時の助け合いの重要性を理解し、主体的に行動しようとする(③ーイ)			
洪水・土砂災害		○竜巻からの身の守り方 (学校内) ・学校での竜巻接近時の安全な行動の仕方について知る(①ーイ) 避難訓練 ・学校内を歩いて、竜巻が起きたことを想定した安全な行動をとることができる(②ーイ) 避難訓練	○竜巻災害の危険性と身を守る方法(学校外) ・竜巻による被害や危険性について理解する(①ーイ) 避難訓練 ・学校外で竜巻が発生した時の身を守る安全な行動の仕方を理解する(①ーイ) 避難訓練	○気象情報を活用した竜巻予測 ・竜巻発生に関する情報収集の仕方、予兆の特徴から率先して避難行動をとることができます(②ーイ) 5年理科 5年学活 ・竜巻が起きたときに自分の命は自分で守ろうとする(③ーイ) 5年理科 5年学活			
	○竜巻からの身の守り方 (学校内) ・学校での竜巻接近時の安全な行動の仕方について知る(①ーイ) 避難訓練 ・学校内を歩いて、竜巻が起きたことを想定した安全な行動をとることができる(②ーイ) 避難訓練	・身近な地域や市の地形、土地利用の様子、公共施設などの場所と働き ・地域社会における災害の防止	・国土の地形や気候 ・自然条件に適応した生活 ・自然災害の防止 ・情報ネットワークと防災 ・国や県市の政治と災害復旧の取組	・国内の地形や気候の特色 ・自然災害と防災への努力 ・身近な地域の調査	社会		
各教科との関連	社会				各教科との関連		
	理科	・天気の様子	・天気の変化 ・流水の働き ・土地のつくりと変化	・火山と地震 ・気象観測と天気 ・自然の恵みと災害	理科		
道徳	・生命の尊さ ・自然愛護	・生命の尊さ ・自然愛護 ・勤労、公共の精神	・生命の尊さ ・自然愛護 ・社会参画、公共の精神 ・郷土を愛する態度	道徳			
その他	・通学路における危険な箇所、安全を守っている施設や人々(生活)		・自然災害による傷害の防止(保健体育) ・家族の安全を考えた室内環境の整え方(技術・家庭)	その他			
<p>※「避難訓練」は避難訓練時の事前、事後に指導する。</p> <p>※「S学活」は、朝の会や帰りの会、業間などにショートの学級活動として指導する。「通学路調査」は、年に1回地区別下校を行い、担当教師とともに歩きながら危険箇所の確認をする。</p>							

キ 平成29年度の授業実践

・千塚小4年学級活動『家庭でできる地震への備え』

家庭防災についての事前アンケートをもとに、家庭での3つの備えについて实物を提示したり、グループで話しをさせたり、ゲストティーチャーの話を聞かせたりして理解できるように支援した。そして、本時の学習を今後の生活に生かせるように考えさせた。

・千塚小6年学級活動『避難所までのルートマップ』

事前の通学路安全調査をもとに、グループで話ししながら、地域の危険箇所を考え、より安全な避難ルートマップを作成できるように支援した。そして、それぞれのグループの発表やゲストティーチャーの話を聞かせたりすることで、地域の安全や今後の生活について考えさせた。



② 実践的体験活動・地域連携部会の研究実践

実践的体験活動・地域連携部会では、「自助の力」と「共助の力」を育成するために、緊急地震速報等を活用した実践的な避難訓練の継続実施や、体育館を避難所とした避難所設営・運営体験等、多様な災害を想定しながら、家庭と地域と連携・協力した実践的な体験活動を実施してきた。

ア 緊急地震速報等を活用した実践的な避難訓練

宇都宮地方気象台の「緊急地震速報による対応・避難訓練学習プログラム」を活用し、緊急地震速報の基本的な知識や地震による物の動き方を知り、地震発生時の安全な行動の仕方について、継続して考えさせてきた。



イ 小中合同避難訓練

小中合同避難訓練では、まず、震度5強の地震を想定し、それぞれの学校で避難訓練を実施した。そして、弟妹のいる中学生はそれぞれの小学校に向かい、引渡訓練も行った。災害時に、速やかに、確実に児童生徒を保護者に引き渡すことができた。



ウ 防災体験（吹上小学校）

栃木市危機管理課の方に教えてもらいながら、身の回りのものを活用して、災害時に役立つスリッパや雨がっぱ作りを行った。



エ 避難所体験（千塚小学校）

P T A祭のときに、栃木市危機管理課の方に協力してもらい、非常食の体験をしたり、避難所生活のようすを見学したりした。



オ 炊き出し・避難所設営体験（吹上中学校）

吹上中親父の会や栃木市危機管理課と連携・協力しながら、生徒が主体的に活動できるようにしてきた。



(3) 研究の成果

- ・防災に関する授業・体験活動を通して児童・生徒の災害に対する意識が高まり、避難行動がすばやくできるようになった。今後も、これまで経験したことがない災害が発生した場合にも適切に対応できるよう、引き続き「学校」「家庭」「地域」が危機意識を共有して、児童・生徒の防災対応能力の育成を図りたい。
- ・中学校では避難所体験を継続して実際にを行うことで、避難所の仕事や役割について理解でき、中学生としてどんな活動や手伝いができるか考えるよい経験になり、主体的に活動する姿も見られた。
- ・小中合同避難訓練の際、中学生が小学生を気遣って安心感を与える様子が見られ、中学生の共助の意識が高まったと感じた。引渡訓練の重要性に対する教師の意識も高まったが、引渡方法や学校周辺の交通混雑の対応などについては、今後検討していきたい。
- ・「栃木市防災教育基本プログラム」を基に、小中9年間で発達の段階に応じた系統的・計画的な防災教育が実現できるよう、各校で各教科等との関連や、年間指導計画を工夫し、自校化を図ることができた。
- ・「吹上ブロック防災教育実践委員会」を実施し、公民館・自主防災組織や危機管理課の方々をはじめとして、地域とのつながりができた。

3 今後の課題

(1) 各教科等のねらいと防災対応能力との関連を図った継続的な指導

- ・2年間の研究で、児童・生徒は、防災対応能力を少しづつ身に付けてきたが、9年間を見通した継続的な指導が今後も必要である。
- ・防災教育の計画的な推進には、防災教育の基本的な目標を明確にした上で特別活動や各教科、道徳、総合的な学習の時間などの教育課程への位置付けを明らかにし、各校での実態に即した自校化への工夫が必要である。また、評価については、それぞれの特質やねらいに即した具体的な観点を設け多様な方法で評価し、指導の充実・改善を図っていきたい。

(2) 地域連携のための連絡調整や時間確保

- ・地域の自主防災組織が立ち上がり、地域住民の防災への意識も高まりつつあるが、まだ地域差が大きく、諸機関との連絡調整や地域連携のための時間確保が難しい。